

岡崎市民病院広報誌



岡崎市民病院 新患外来担当医一覧表

平成30年10月10日現在 [受付時間] 午前8時～11時 (皮膚科は月曜日のみ10:45まで)

科名	月	火	水	木	金
総合診療科	安藤 晃禎 都築 佳枝	安藤 晃禎 都築 佳枝	安藤 晃禎	塚本・前田(隔週) 都築 佳枝	安藤 晃禎 越川 佳樹
血液内科	新美 圭子	岩崎 年宏 鴨下 園子★		市橋 卓司	岩崎 年宏
内分泌・糖尿病内科	渡邊 峰守	塚本 健二	鈴木 千津子★	佐藤 勝紀	倉橋 ともみ
腎臓内科	腎臓内科医師				
膠原病内科		岩破 由美★		西野 譲★	平野 大介★
脳神経内科	辻 裕文	高木 伸之介	大塚 健司	斎藤 勇紀	前田 憲多郎
消化器内科	平松 美緒	藤田 孝義	飯塚 昭男 水野 史崇	山田 弘志	森 裕
循環器内科	田中 寿和	三木 研	早野 真司	根岸 陽輔 鈴木 徳幸 午後:不整脈外来	丹羽 学
呼吸器内科	八田 貴広★	竹田 菜穂子★	竹田 菜穂子★	竹田 菜穂子★	高原 紀博
小児科	小児科医師				
	野村 羊示 加藤 徹 長井 典子 渡邊 由香利 辻 健史	高橋 ゆま 成瀬 和久 林 誠司 松沢麻衣子(発達) シナジス安藤将太郎 長井(水野)	松沢 要 近藤 勝★ 池住 洋平★ 渡邊(田野) 福本 由紀子 長井 典子	渡會 麻未 安藤 将太郎 松沢 麻衣子 辻 / 袴田 (神経) 瀧本★/川崎	田野 千尋 加藤 潤一 林 誠司 渡邊(辻) 神経(隔週) 近藤 知子
外科	伴 友弥	飯塚 彬光	鈴木 章弘 乳腺外来 鈴木 祐一 石山 聡治	森 俊明	吾妻 祐也 乳腺外来 横井 一樹 (乳腺・内分泌外科) 木村 次郎
緩和ケア					
小児外科			千馬 耕亮★		
呼吸器外科		親松 裕典	岡川 武日児		
心臓血管外科	湯 浅 毅		保浦(1-3週)湯浅(2-4-5週)	堀内 和隆	水谷 真一
		長谷川 雅彦	長谷川 雅彦	循環器センター医師 午後:心雑音・弁膜症外来	
脳神経外科	錦古里 武志 丹原 正夫	有馬 徹 熊谷 祐紀	脳外科医師	有馬 徹 錦古里 武志	丹原 正夫 加藤 直毅
整形外科	山田 陽太郎 斎藤 雄馬	小嶋 秀明 斎藤 雄馬	西本 圭佑 松本 明之 (脊椎外来) 大脇 義宏	加藤 大策 山田 陽太郎 加藤 大三 (リウマチ外来)	杉浦 喬也
形成外科	中村 優(隔週)★ 形成外科医師	加藤 剛志	山本 将之	山本 将之	加藤 剛志
産婦人科	今川 卓哉	千田 康敬	角 朝美	近田 琴美	内田 亜津紗
眼科	岩瀬 紗代子	都築 一正	岩瀬 紗代子	都築 一正	都築 一正
耳鼻咽喉科	田中 英仁 楊 承叡 向山 宣昭	田中 英仁 曾根 三千彦★ 楊 承叡	森岡 優★ 楊 承叡 向山 宣昭	田中 英仁 都筑 浩一★ 向山 宣昭	田中 英仁 楊 承叡 都筑 浩一★
泌尿器科	小山 花南江★	高井 峻★	泌尿器科医師	田村 正隆 山田 伸	泌尿器科医師
皮膚科	加藤 裕史★	中村 元樹★	堀尾 愛★	中村 令子★	西原 春奈★
歯科口腔外科	大林 修文	前田 千芽 齊藤 輝海	大隅 縁里子	伊藤 洋平	大林 修文 伊藤 洋平

担当は都合により予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。 ★: 代務 □: 完全予約制

この広報誌に関するご意見・ご要望はFAXにて地域医療連携室にお寄せください
岡崎市民病院地域医療連携室 TEL 0564-66-7262 FAX 0564-25-6720
 ●平日/8:30~17:00 ●土曜日/9:00~13:00 ※但し、祝日・12/29~1/3はお休みさせていただきます。※業務時間外は留守番電話になります。

[テーマ] 急性期病院における栄養・嚥下 口腔領域の多職種チームアプローチ

えんげ 嚥下障害とは?

「食べる」ことは多くの人にとって楽しみの一つだと思います。嚥下障害とは「飲み込む」機能が障害されることを言います。症状は、食べるとむせる、形があるものを嚥んで飲み込めない、食事に時間がかかる、食べると疲れる、食後に痰が出る、食事を摂ると声が変わる、食べ物が口からこぼれる、飲み込んでも食物が口の中に残る、食べ物が見つかるなどです。また、嚥下障害により体重減少、低栄養、脱水、重症になると誤嚥性肺炎を起こします。何よりも食事に苦勞するため「食べる楽しみ」が減ってしまいます。

摂食嚥下・栄養管理委員会 齊藤 輝海

急性期病院における栄養・嚥下・口腔領域の多職種チームアプローチ

栄養・嚥下・口腔管理が必要な理由は？

近年、急性期医療に対しては治療と並行して、早期に自宅退院できるための包括的なケアが求められています。生命の危険、障害の進行や悪化が起こりうる時期でも、栄養状態の改善、廃用性障害の予防、早期離床や日常生活の基本動作の獲得を目的とした介入が必要です。そして、治療促進と包括的ケア推進のためには栄養管理がとても重要となってきます。病気と闘うため、闘いながら身体を動かすためには栄養摂取が必須です。しかし、急性期は様々な病態が存在し、病態に応じて栄養管理方法も点滴、経管栄養、経口摂取など様々です。一般的に、腸管が使えるなら使おうという大前提があります。そして、多くの患者さんには「口から食べたい」という思いがあります。しかし、経口摂取を行うためには嚥下機能や口腔環境が大きく影響します。嚥下障害の原因は、脳血管障害による麻痺、神経・筋疾患、薬剤の影響、加齢による筋力低下、残存歯数の減少、義歯の不具合など様々です。これだけ多岐に渡る要因を個人で管理するのは困難です。そのため、当院ではそれぞれの分野の専門職がチームを組み、連携をとって介入しています。

チームメンバー

当院の栄養・嚥下・口腔領域では摂食嚥下栄養管理委員会が中心となり平成25年度より「口福を守るE.A.T.プロジェクトチーム」を結成し、活動しています。口福を守るE.A.T.とは摂食・嚥下障害を合併した急性期疾患患者への全人的な医療・ケアを行い、患者の口から食べる幸せ（口福）を守ることを目的とする多職種チームです。

メンバーは医師、歯科医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、歯科衛生士、臨床検査技師、理学療法士、言語聴覚士と多くの職種が関与し、栄養サポートチーム、嚥下チーム、口腔管理チームにわかれ連携をとって活動しています。

チーム活動

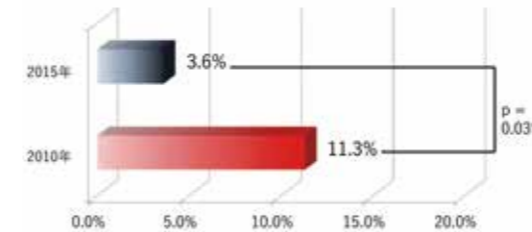


入院患者のほとんど(産科、小児科、短期の検査入院を除く)に対し、入院時に栄養・嚥下・口腔領域のスクリーニングを実施しており、年間15,000件以上行っています。



スクリーニングで該当した場合、専門家が必要に応じて連携をとりながら介入するシステムとなっています。

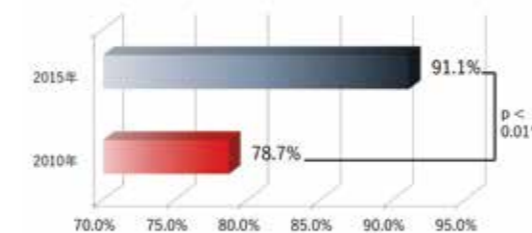
当院脳梗塞入院患者の肺炎合併率



例えば、嚥下障害のある患者さんに対して、誤嚥性肺炎予防・嚥下機能改善を目指し、嚥下チームと口腔管理チームが連携して介入し、さらに、栄養サポートチームとも情報共有し、嚥下機能に応じた栄養摂取方法を提言するといった活動を行っています。



当院脳梗塞入院患者の経口摂取率



活動実績

入院患者さんの誤嚥性肺炎合併を予防しつつ、積極的な栄養摂取により治療を促進し、おいしく食べて退院することをサポートしています。口腔ケアのビデオマニュアルを作成し、院内の標準化を図り、さらに専門的口腔管理を年間204件行いました。

当院に誤嚥性肺炎で入院した患者



栄養サポートチームのチーム回診は年間744件、栄養士回診は年間621件行いました。

言語聴覚士に対する嚥下訓練は年間1,876件指示され、その中で必要な患者さんに対して内視鏡嚥下機能検査を年間301件、嚥下造影検査を年間264件行いました。(全て2017年度)

このようなチーム活動の結果、院内肺炎の減少や治療促進、おいしく食べて退院する患者さんの増加を図ることができています。

問い合わせ先

地域医療連携室

●平日/8:30~17:00 ●土曜日/9:00~13:00

TEL 0564-66-7262 FAX 0564-25-6720

最善の医療が提供できるよう日々努めてまいります

外科 新任医師
ひろた まさし

廣田 政志

平成30年7月1日より愛知県がんセンター愛知病院消化器外科から岡崎市民病院外科へ異動となりました廣田政志と申します。愛知病院の岡崎市への移管に向けて、愛知病院での消化器がん診療を岡崎市民病院へと展開していく所存です。個々の患者さんに対し、最善の医療が提供できるよう日々努めてまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

胸腔鏡の手術も積極的に行っていきます

呼吸器外科 新任医師
おかがわ たけひこ

岡川 武日見

平成30年7月1日より赴任となりました岡川武日見と申します。平成11年に卒業後当院にて初期研修をしておりました。縁があり19年ぶりに再度お世話になっています。当科では肺がん、気胸、縦隔腫瘍に対しても外科治療を行っています。胸腔鏡の手術も積極的に行っていきます。今後ともどうかよろしく申し上げます。

当地域の医療に貢献したいと考えております

循環器内科 新任医師
あらい たかし

荒木 孝

JA愛知厚生連海南病院より平成30年4月から赴任してきました。初期研修終了後、大阪にて内科後期ローテート研修を経て、5年目より循環器内科医として従事しております。まだまだ至らない点が多いと思いますが、当地域の医療に貢献したいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

最期まで食べられる街、岡崎市をめざしています

摂食・嚥下障害看護認定看護師
にしじま くみこ

西嶋 久美子

「食べる」行為は、単に栄養を補給するというだけでなく、人生の楽しみでもあります。摂食・嚥下障害看護認定看護師の仕事は、「食べる」ことを1日でも長く、たとえ少量でも継続し、人生の楽しみを喪失しないよう、患者に寄り添い援助していくことです。嚥下機能は、「栄養」「運動」「口腔内環境」の全てをアプローチすることで維持改善します。院内だけでなく、地域の方々にも、嚥下障害の知識を知っていただき、予防にも取り組んでいきますのでよろしくお願いいたします。